



TITLE:

水道管破裂被災により得られたもの<特集：図書館の浸水事故と復旧>

AUTHOR(S):

河村, 純子

---

CITATION:

河村, 純子. 水道管破裂被災により得られたもの<特集：図書館の浸水事故と復旧>. バベルの図書館 : 総合人間学部図書館報 2005, 9(2): 28-34

ISSUE DATE:

2005-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/153038>

RIGHT:

## 水道管破裂被災により得られたもの

河村 純子

「何かが違う…」2004 年 12 月 24 日の朝、いつものように西門から入り、図書館が視界に入った時、そう思った。前日雨が降らなかったのに、入り口の階段とその周辺が濡れており、玄関足拭きマットが干してあった。専攻事務の職員がバケツを持って小走りに出て行く。そして、入り口には「水漏れ事故のため本日は休館」の案内が…

1 階閲覧室、雑誌架の横にある洗面台の水道管が破裂、1 階のみならず、階段を伝い、中地下、地下まで水が流れ込んだ。図書 3,500 点余り、掛軸 266 種 420 点が被災した。水損が激しいものは元に戻らず、失ったものは計り知れないが、得たものは大きい。

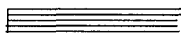
まず、中地下・地下の書庫にあった水損の図書、掛図をブックトラックに載せ、2 階大閲覧室に搬出した。地下からエレベーターで上がる際、水の中を切って進むような音が聞こえ、不安が過ぎた。間もなく使用禁止、業者が掃除機で水を吸い上げた。途中で止まらず、ほっとした。

### 1) 被災図書資料の処理

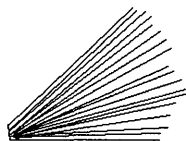
図書を大閲覧室閲覧机 330 席に並べ乾燥していくが、とても机の上だけではスペースが足りず、床に紙を敷き、その上にも広げていった。洋資料では *Everyman's library*, *English experience*, *Que sais-je?*, *Actualités scientifiques et industrielles*, *The home university library of modern knowledge*, *Sammlung Dalp*, *Biblio- thèque nationale*, *The thinker's library*, *L'évolution de l'humanité* といった叢書類が中心で、その他 Johannes Kepler 著 *Gesammelte Werke*, Christiaan Huygens 著の *Œvres complètes* といった個人著作集、心理・歴史・文学関係の単行書があった。和資料では「大日本校訂大藏經」、「風俗画報」以外に心理・政治・物理・工学関係の単行書があった。

水損資料をどう処理するのか、私には今まで知識がなかった。フリーズドライの方法があるそうだが、今回は藁半紙を挟むやり方が採られた。乾燥用の藁半紙を用意、各ページの間に 1 枚 1 枚挟んだ。1 冊で 500 ページに及ぶ図書も多く々有り、濡れて密着したページを 1 枚ずつ剥がしながら挟む作業は、気が

遠くなりそうだった。1 冊仕上げるのに想像以上に時間がかかってしまう。紙がどんどん挟まると図書の背から扇状に広がり、裂けてしまいそうになるので、急ぎつつも恐る恐るの作業であった。



図書が閉じた状態 (断面図)



用紙が挟まった状態

今回被災したのは 12 月 24 日 (金) だったが、週末に間に入るのにもかかわらず、25 日 (土) から 28 日 (火) の仕事納めまで、30 人程のアルバイトが来ることになり、非常に助かった。職員だけではとても対応できなかったと思う。

翌日、目録カード室にあるカードケースには紐が掛けられ、水損が激しい *Que sais-je?* が洗濯物のように掛けられた。表紙裏表紙両面が濡れているものには有効な方法と感じた。カードケースの上には、図書から取り出した用紙で再利用できそうなものが並べられ、乾燥させてあった。いずれもふやけ、所々茶色の線が入っていた。

アルバイトが紙を挟む作業を担うようになってからも少しお手伝いしたが、26 日の午後は B5, A4 の用紙を半分に切断する作業に追われた。各ページに挟む為、用紙がすぐに無くなるのである。水損が激しいものは、用紙を挟んでも見る見るうちに湿ってしまうので、途中で入れ替える作業も必要となった。電動裁断機を始めて使用した。左右のボタンを同時に押さないと刃が降りないとわかりつつも怖くて今まで使わなかったが、優れものだった。一度に 250 枚程度は裁断できるので、手動のものとは比較にならない。最初の何日間かは地下の電気が完全に使えなかったため、裁断面に走る一筋の光、1 階上から漏れてくる明かり以外はほとんど暗闇の中での作業だった。薄暗い書庫の中で、「ギーギー」と用紙を裁断する音だけが響く。あとから考えると、ホラー映画に出てくるワンシーンのようだったかもしれない。途中で用紙を挟む作業をしに 2 階大閲覧室に戻りながら、A4, B5 各々 5,000 枚程裁断したように記憶している。枚数としては、半日分、全体からみれば極一部である。

24 日から 28 日までには図書・掛図のために暖房が点かない状態の中、アルバイトが懸命に用紙を挟む姿を見て、頭が下がる思いだった。いくら厚着をしても手先は処理の際に必要で覆いようがなく、悴みながらの作業だったと思う。

風邪で咳いたり鼻水をすすっているマスク姿の院生もいて、ひどくならないか心配になった。普段は開放感がある高い天井が、暖房がないと寒さが増し、空気がぴんと張り詰めているように感じた。机の上、床に置かれた多数の図書を見ると、胸に迫るものがあつた。

図書については、閲覧希望があつた際の対応のため、27 日から 28 日午前中にかけて、簡単なリストを作成した。アルバイトの邪魔にならないようにしながら、各テーブルの通し番号、請求記号、登録番号、書名等必要事項を書き写した。遡及入力済み、バーコードの資料 ID ラベルが貼付されたものは、読み取り機でスキャンするだけで情報が入力される。昨年 4 月の法人化後、書庫内図書遡及入力まで手が回らない状態だが、遡及が終了していれば、利用者にとって貸出手続きが楽になるのは言うまでも無く、今回の作業も大幅に短縮できたはずである。第三高等学校以前分は京都大学と別組織になるため、別途対策が必要とはいえ、入力の必要性を改めて感じた。

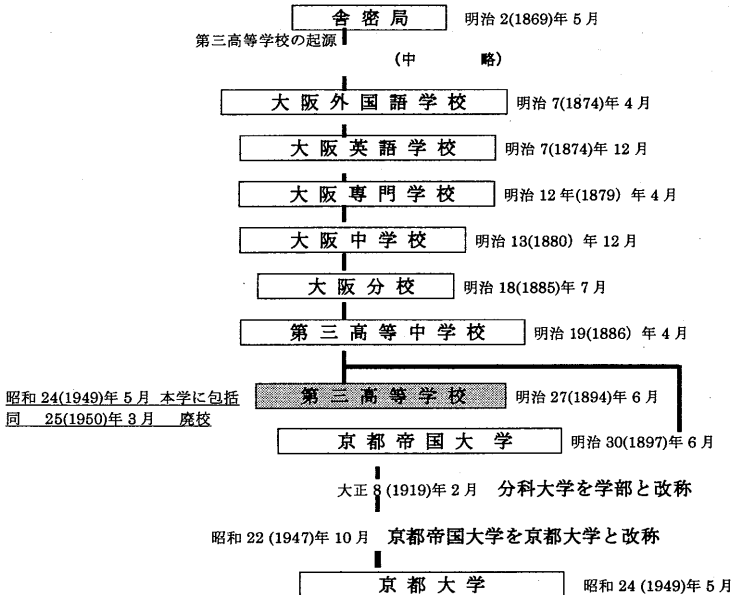
現在、図書は燻蒸処理が済み、別置されている。燻蒸の匂いも始めて嗅いだ。元掛長が以前貸して下さった紀田順一郎著『第三閲覧室』(新潮社 1999.7)では、書庫燻蒸中に殺人事件が起こる。今まで実際の燻蒸を体験したことがない私には、そのイメージが強くあつた。実験室の薬品のような匂いがする。業者が毒性を測定し、安全と確認されたが、匂いがなかなか抜けない。毎日の換気が欠かせない状態だ。「2004 (平成16) 年12月24日水道管破裂被災資料」のスタンプを各々の標題紙に押印後、書庫に戻す予定である。

## 2) 被災掛図資料

### ① 処理

被災した翌日、専門業者が水損の激しい掛軸、74 点を 2 階目録カード室と廊下・2 階大閲覧室と OSL との間のパーテーションや大閲覧室の壁に針金で掛けていった。図書館の 2 階に階段で上がるとすぐ見え、大閲覧室に通じる廊下の右側のパーテーションに沿ってずっと続き、大閲覧室に入ると壁面三方に掛かっていて、非常に見応えがあつた。

掛図は第三高等学校やそれ以前の時代の財産で、講義用に使用したと思われる。第三高等学校は明治 27 (1894) 年 6 月～昭和 25 (1950) 年 3 月。古いもので、100 年以上も前と考えると感慨深い。



御張臺之圖，御祖廟神代系圖，明治期の日本地図や世界地図・歴史地図，朝鮮図，大東亞共榮圈圖，京都近郊図，地勢図，火山の地形図，油田・炭田の地質図，土性図，鉱山図，古生物化石や動植物の図解，皇朝婦人風俗沿革全圖，鎧威毛や襲色目の標本図，内裡圖，日露露戦争の日本軍の手書き作戰図や陸軍航空本部検閲の防空智識図，拓本等があり，歴史・地理，理学・博物，社会・産業，美術・工芸と多方面に渡る。被災しなければ決して見ることはできなかったと思う。貴重な体験となった。

専門業者に出し，燻蒸・染み抜き・乾燥を行なうとのことで，リストを作成した。掛けた状態のものは，可能な限り，針金から恐る恐る取り外し，表裏両面を確認し，請求記号，登録番号，タイトル等読み取れる内容を書き写した。和洋問わず，裏面に日本語でタイトルが書かれたものがあったが，ほとんど何の記載も無いものもあった。水損が軽いものは巻いたままのリスト作成となったが，タイトルから判断して，掛けてあったものと同様，他分野に渡っていた。

全体的に見て，請求記号が明記されたものは，和資料 163 種中 111 種，洋資料 103 種中 82 種だったが，和資料では VI 門 理学が 39.6% を占め，次いで，

V 門 歴史・地理が 36.9%, VIII 門 社会・産業が 14.4%であった。請求記号が無かった分でも VI, V の両分野が多い印象を受けた。洋資料では V 門 History, Biography, Geography が 52.4%, VI 門 Science が 20.7%, IX 門 Art が 15.9% を占めた。請求記号が無い分は VI 門の Science が多かった。巻かれたものは広げて見る時間がなく、残念だったが、この機会に全ての写真撮影を行なうそうなので、全容が明らかになる。楽しみである。

## ② 旧分類について

現在、新規受入図書を整理する場合は、NDC (日本十進分類法) に基づき請求記号を決定しているが、1986 年以前は「京都大学教養部図書分類表法」(通称「旧分類」)を使用していた。台帳や目録カードから考え、第三高等学校ですべての時期ではないが同様の分類表を使用したと思われる。普段、遡及入力や継続図書を処理する時以外あまり意識しなかったが、今回掛図のリストを作成する際調べたら、旧分類では分野ごとに掛図の項目が設けられていることが改めてわかった。和洋で微妙に異なるが、例えば和資料の V 門 歴史・地理では 510 が「歴史総記・考古」等、520 が「系統・伝記」等、530 が「地理総記」、540 が「土俗学・民俗学」だが、529 が「掛図(歴史)」、537 が「地図・掛図」となっている。各分野に分類されているものもあったがわざわざ別項目を設けていたということは、掛図が一定の割合を占め、重要視されていたと思われる。興味深かった。

以上、私が関わった業務を中心に、記憶している範囲で書かせていただいた。一生忘れられないクリスマス・イブとなった。被災資料を見る度に胸が傷んだが、処理方法が学べ、普段目にできない資料を見たり、触れたりでき、電動裁断機の使用方法がわかり、通常なら味わえない貴重な体験となった。年末年始の休みの間に起こらなかったことは不幸中の幸いであつたし、皆様の迅速な対応の結果、被害の拡大を防ぐことができた。当部局・他部局の方からいただいた労い、励ましのお言葉・メールも、どれ程励みになったかわからない。

この原稿を書かせていただく機会を得て、最近ようやく落ち着けたのは、多方面の方々のお陰であると改めて実感した。最後になったが、ご尽力いただきました皆様にお礼を申し上げたい。いろいろとありがとうございました。

(かわむら すみこ、人間・環境学研究科総合人間学部整理掛)

京都大学教養部図書分類表(其一)

目次			
0 叢書・全集	321 国法学、憲法、行政法、政治学	640 天文学、気象学、暦学	
I 辞書	331 経済、保険	650 地文、地質、地震学、海洋学、火山学、地球物理学、地学	
II 哲学・教育・宗教	332 財政	660 博物総記	
III 法律・政治・経済	333 経営学	661 生物学、人類学、生物化学	
IV 文学・語学	340 統計	662 動物学	
V 歴史・地理	349 掛図(法律、政治、経済)	663 植物学、本草学	
VI 理学(博物・医学)	350 雑誌、報告(法律、政治、経済)	664 鉱物学、岩石学、結晶学	
VII 工学	IV 文学・語学	670 医学、衛生、雑記、医学史	
VIII 社会・産業	410 文学、文学論、論評、研究、寓話集	671 医学、病理学、獣医、法医学	
IX 美術・工芸	411 文学史、文人伝、年表	基礎医学、臨床医学	
	412 漢文、文集、文話	672 解剖学、組織学、胎生学	
	413 国文、物語、草紙、日記、元禄文学	673 生理学、衛生、看護法、養生	
	414.1 詩集一漢詩、詩学、詩話	法、医化学、生化学、生理化学	
	414.2 同一歌集、歌学、歌話、万葉集	674 薬物学	
	414.3 同一新体詩及韻文	680 掛図(理学、博物、医学)	
	414.4 同一俳諧、俳句、俳文、連歌、川柳、狂詩	690 雑誌、報告書(理学、博物、医学)	
	414.5 同一俗曲、歌謡、長唄、民謡		
	414.6 同一和漢、詩文、雑集	VII 工学	
	414.7 随筆、小品	700 工学総記	
	415 戯曲、浄瑠璃脚本、謡曲、狂言	710 土木、測量学	
	416 小説	720 機械学、サイバネティクス、原子力発電	
	417.1 翻訳書一小説	730 建築、造船学	
	417.2 同一戯曲	740 電気学、電子工学	
	417.3 翻訳書一詩、論文、雑、書簡	750 探鉱冶金学	
	420 語学総記	760 応用化学、化学工業、合成化学	
	421.1 国語、漢文一文法、音韻、仮名遣、方言(日本)	770 農学、林学、水産学	
	421.2 同一修辭、作文、書簡	780 掛図(工学)	
	422.1 外国語一英、独、仏、其他	790 雑誌、報告(工学)	
	422.2 同一中国語、東洋諸国語		
	439 掛図(文学、語学)	VIII 社会・産業	
	440 雑誌、報告(文学、語学)	810 社会、社会学、社会問題、労働問題、労働法、社会思想、社会政策	
		811 文化人類学	
	V 歴史・地理	820 社会事情、国勢	
	500 歴史、地理、総記	830 風俗、民俗学、皇室大札、有職、儀式	
	510 歴史総記、考古、考証、年表	840 産業、交通運輸、移民移住、通信	
	511 史論、史話、研究、論叢	850 農業・森林・水産・漁業	
	512 史料、古文書	860 商工業、銀行、会計学、貿易	
	513 世界史	870 兵事、戦史、陸海軍、兵器	
	514 西洋史一地方史、時代史	880 家庭	
	515 東洋史一地方史、朝鮮史、時代史	889 掛図(社会・産業)	
	516 文明史、文化史	890 雑誌、報告(社会、産業)	
	517 本邦史一地方史、時代史		
	520 系統、伝記、言行録	IX 美術・工芸	
	529 掛図(歴史)	900 美術、工芸、総記	
	530 地理、総記	910 美術、書画道、画論、建築、音楽、美術随筆、美術全集、造園、彫刻	
	531 世界地理・人文地理	911 美術史、画人伝	
	532 西洋地理	912 書画、写真集、美術目録	
	533 東洋地理	920 諸芸(体育、登山、映画)	
	534 本邦地理	930 工芸、写真術、陶器、製図、図案、図学	
	535 地方誌、名勝地誌、図会、案内記	949 掛図(美術、工芸)	
	536 紀行、道中記、探検記	950 雑誌、報告書(美術、工芸)	
	537 地圖、掛図		
	540 土俗学、民俗学		
	550 雑誌、報告(歴史、地理)		
	VI 理学(博物・医学)		
	600 理学総記(自然科学)		
	610 数学総記(推計学、数理統計、確率論)		
	611 算術		
	612 代数		
	613 幾何、解析幾何、微分幾何、位相数学		
	614 三角		
	615 微分積分、解析学、函数論、微分方程式、常微分方程式、積分学、偏微分方程式		
	620 物理学		
	630 化学		
0 叢書・全集			
010 叢書、全集			
020 全集、遺稿			
030 類書			
040 随筆			
050 雑書			
060 目録、一覧、解題、書誌学			
070 雑誌、新聞、年鑑、紀要			
080 論文集、書簡集、講演集			
090 三高資料			
I 辞書			
100 総記、雑記			
110 哲学、宗教、教育、倫理、心理			
120 法政、経済、社会			
130 文学、語学			
140 歴史、地理			
150 理学、工学			
160 農、商、工業			
170 美術、工芸			
II 哲学・教育・宗教			
210 哲学			
211 哲学史			
212 倫理(修身教訓)			
213 心理、胥相学、社会心理学			
214 論理			
215 美学			
216 東洋哲学			
経書、諸子、日本儒家			
217 印度哲学			
218 日本哲学、日本思想、日本精神			
220 教育、図書館、体育			
221 雑誌、報告(教育)			
230 宗教			
231 宗教史			
232 神道			
233 基督教			
234 仏教			
235 神話、神話			
239 掛図(哲学、教育、宗教)			
240 雑誌、報告類(哲学、宗教)			
III 法律・政治・経済			
300 社会科学			
310 法律総記			
311 民法			
312 商法			
313 刑法			
314 訴訟法、人権擁護			
315 国際法			
316 羅馬法、古代法			
317 法令			
318 法制史、法制			
319 判決例			
320 政治、行政、外交(雑記)、政治史			

34